フラウ 7月27日号 第14巻第16号(隔月2回刊2・第4火曜日発行) 平成4年1月16日

FRaU

フラウ
7/27
440円

誰も知らない

フラウが選ぶU-23
日本映画代表は、
柳楽優弥クン!

シュレック2

『Deep Love』は、
私の物語
でもある

きっとできる!

私にだって

深い恋、

フラウ・シネマ・スペシャル

思わず激情する愛の映画200

おすぎさん&佐藤友紀さんのパワフル新作映画チェック

この夏、激情してみませんか

完全保存版
あなたのフェロモンの欲望に応えます。

泣きたくなるほど熱くなれるDVD・VHS200本

今、地球で一番セクシーな男

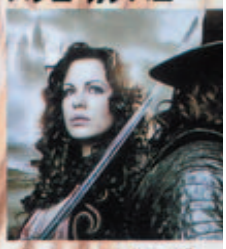
ジョニー・デップ

色気フルな男たちの肖像

浅野忠信・妻夫木聡・坂口憲二・ペ・ヨンジュン・豊川悦司

CODE46

バレエ・カンパニー



ヴァン・ヘルシング

父と暮せば

キング・アーサー

Mの物語

LOVERS

モナリザ・スマイル

先頃ロマンティックな結婚式で注目されたスペインのフェリペ皇太子の従姉妹に当たる。『プリンセス・オルガ・オブ・グリース』。ギリシャの王女は肩書からは想像もつかないほどの、エネルギー、知性、そしてチャームに溢れている。アテネに生まれ、ギリシャが共和制になった後、家族はパリ、ニューヨーク、英国に暮らした。それぞれの国の多様な文化と価値観に触れたプリンセスは、プリンストン大学で文学、コロンビア大学で建築学の修士号を取得した。その後世界中を旅行し、今もその最中のようだ。

韓国はヒッチハイク、バイカル湖はトロール船で、中国はバイクで探検した。ゴビ砂漠では恐竜の骨を探し、エジプトでは砂漠の端の泥煉瓦の家に数ヵ月間住んだ。彼女のアドベンチャーは中東、アジア、ラテンアメリカ、ネパールからシリア、チリ、南太平洋にまで及び、フォトジャーナリストとして丹念に旅を記録し、数々の雑誌に発表している。20代後半に彼女が見つけた答えは、パナマのジャングルに「リキッド・ジャングル研究所」を設立することだった。著名なスミソニアン熱帯研究所、ウッズホール海洋研究所とのジョイントプロジェクトだ。環境研究、なかでも差し迫った地球環境問題の解決のために設立した。一年の

王女様はバラがお好き

美しきアドベンチャー・プリンセス

華やかで美しく、かつ上品なプリンセス・オルガは、冒険心溢れる行動派で、自然をこよなく愛する。肩書の重さを受け止めながら世界中を飛び回る彼女は、外見だけでなく人間として、女性として、魅力的な存在だ。

撮影／篠山紀信
取材・文／西山栄子（ファッションコーディネーター）
ヘア＆メイクアップ／Matsu Kaz（PLUS）
企画／矢幡聡子

オルガ・イザベル・ギリシャ＆デンマーク王女殿下
Her Royal Highness Princess Olga Isabelle of Greece and Denmark
1971年11月11日生まれ。両親はマイケル王子とマリナ王女。「プリザーブドフラワー VITA ROSA プリンセス オルガ コレクション」についてのお問い合わせ先はパレックスジャポン☎03・5420・6332 www.vitarosa.net

数ヶ月をここで過ごす科学者の顔を持つ一方、蝶や蛾の研究にも力を入れている。現在、パナマのコイバ島（元囚人の島として有名）を蝶の生息地として世界遺産にとユネスコにアプローチしている。ジャングルでの探検には友人のシューズ・デザイナー、クリスチャン・ルブタンが彼女のために特別なアドベンチャー・ブーツを作ってくれる。

そんなプリンセスの暮らしとは、いったいどんなものなのだろう。

「私たち家族は王族という立場のおかげで、いろいろな方にお目にかかることも、珍しい場所に行くこともできます。両親からはこの特権を賢く使うようにと教えられてきました。一方で、王族であるからこそ、私は何ができるかを証明しなければならないのです。パナマ・プロジェクトもそのひとつです」

では、10年後はどうしているのだろうか。

「今進んでいる方向に向かって引き続き仕事をしているでしょう。森が今より救われていることが願いです。子供が5人くらいいるのもステキですね（笑）」

彼女を取り囲んでいる美しいバラは、この秋日本で発売される「プリザーブドフラワー VITAROSA プリンセス オルガ コレクション」。3年以上枯れることなく美しい色と表情を見せてくれる加工を施した、フランスから届いた薔薇や葉をプリンセスがデザイン、アレンジしたコレクションだ。自然を愛し、保護に努めるプリンセスに加わった、新しい仕事の成果に囲まれて、彼女はノーブルな笑顔をのぞかせた。

The horizon to dance

クリスタル・セレニティ号で世界をめぐる

躍る水平線

vol.3

ヴェニス

絵と文
河原シンスケ

監修
矢幡聡子
協力
クリスタル・クルーズ

「えーと、次なる寄港地は？」太陽を浴び、片手にはシャンパン、片手に読みかけの本。豪華客船クリスタル・セレニティ号でめぐる地中海の旅へと出かけよう。

ずっと変わらずパリ好きの僕だけれど、それでも浮気心が芽生える程ヴェニスは特別な街。

観光客が多い（本当に多い）、季節によっては水の澱んだ臭いがたまらない、などの欠点も吹っ飛ぶ程魅力的。

映画祭、ヴィエンナーレ、オペラ、ゴンドラ競争、そして仮面のカーニバル。お祭りに事欠かない街ヴェニス。その魅力の発信源は、きっとルネッサンスから脈々と続く文化の薫りをそこここに漂わせているところかもしれない。目を細めてTシャツ、バックパック軍団を頭の中でイレーズしてみると、アドリア海の女王の本当の姿が浮かび上がる。人通りの多い目抜き通りや広場から、秘密の場所を見つけたような路地には、誰一人佇んで

大好きなので、勿論ムラノ島の工房で実演も見学した。綺麗だけど、ああしたらもっと格好良いのにとか、好みのデザインを頭に思い描きつつ、口出ししてみたくなってウズウズしたりはいつもの事。

こんなに観光客が多いヴェニス。それでも美味しいレストランは、80%が顧客で、ちゃんと商売が成り立っているらしい。とはいっても顧客の中には世界中からの人々も含まれる。夏の空気を漂わせた食堂には、白い上着に身を包み、微動だにしない姿のまるでミリタリーさながらの伊達男のサーバー達が、客の微妙な合図を慎重に待ち構え迅速に対応する。これは本当に凄い！

待ち切れない料理。手長海老のグリルは2つに割った海老の身が、ちゃんと半生状態の最高な焼け具

へでいなくて、別世界に迷い込んだような錯覚に陥り、誰でも物語の主人公になれそうな魔法にかかってしまう。そう、僕はかかるのだ。訪ねる毎に、その魔法に。

サンマルコ広場なんてその顕著な例。明け方こっそり起きだして中心に立ってみる。静寂と朽ちた色っぽい色合いの壁や円柱の回廊。鳩もこの時ばかりは、遠い時代のメッセンジャーのように効果的にこの舞台の傍役をつとめてくれる。全く昼とは違う場所のようだ。

広場に面したCAFE FLORIANは、1720年創業の老舗。当時そのままの内装が、素晴らしい。一時期存続の危機に陥った時の改装案が、世界中からの猛反対で却下されたという素敵ないわく付きの店でもある。ヴェニスの工芸では、有名だけどレース編みにはあまり興味がない僕。反対にガラスにはオオアリ！　アトリエ巡りも

合。タコのボイルは、まだほんのり温かいくらいが美味だった。スズキのカルパッチョ、真っ白な身とのコントラストが新鮮なイカスミのパスタもヴェニス名物。

バポレット（水上バス）でヴィエンナーレへ向かった。アートの万博。ブースを見進むうちに何だか暗くなってザーッという凄い音。隣のビデオ作品のノイズかと思いきや、豪雨。そして稲光り。雨宿りをかねてお陰で随分ゆっくり作品を見て回ることになった。雨は上がったけれど、かすかに残る遠くの稲光りがなんとも綺麗。サンマルコに戻ってハリーズバーのベリーニでアペリティフ。夜の帳がおり、広場や路地には、まだまだ喧噪がエコーしている。まるでカサノバの亡霊が夜会の後に影を残して漂っていてもおかしくない、そんな感じがなんとも不思議なこの街だ。

Shinsuke Kusahara

1963年生まれ。87年に渡仏。パリを拠点に、雑誌広告などのイラストや、ファッションブランドのイメージクリエーションなどを手がける。主な仕事にBABY GAP N.Y.のイメージクリエーションや、ルイ・ヴィトン ジャパン "ル マガジン" のクリエイティヴディレクション、アドバイザリーなどがある。